

思いをつなぐ ～意思決定支援の周辺で～

津久井やまゆり園 芹が谷園舎
佐田 恵利子 小林 恵里加
宮崎 剛志 押田 誠一郎

1.活動の目的

津久井やまゆり園では、昨年度より、神奈川県
の再生基本構想に則り、津久井やまゆり園利用
者様の意思決定支援に取り組んでいる。津久井
やまゆり園の職員は、利用者様お一人おひとりの
生活が、より豊かに、ご本人の希望や夢を目指し、
そして、ご本人が望む生活ができるよう、日々の
生活の中で寄り添い、ご本人を中心にした支援を
実践している。どんなに重たい障がいがあろうとも、
利用者様はかけがえのない人間であり、意思表
明の力があることを大前提にして、私たちは取組
みを行ってきた。「お一人おひとりの心の声をどう
やったら聴けるのか」その方法を模索し、「何が正
解か」を求めるものではなく、また、頭から否定す
るのでもなく、一つの可能性としてとらえて、取組
みを進めた。

- ① 意思決定支援に取り組んでいる。
- ② 一人ひとりには意思表示の力があることを大前提。
- ③ 一人ひとりの心の声をどうやったら聴けるのか。
- ④ 正解を求めるものではなく、一つの可能性として活動した。

図 活動の目的

2.活動の内容

一つ目は、指筆談を用いたコミュニケーション
方法の実践についてである。指筆談とは何か、ま
た、この方法を取り上げた経緯、実践内容とその
結果、そして考察等を詳しく述べる。

二つ目は、啓発活動として、「僕のうしろに道は

できる」というドキュメンタリー映画の自主上映会
についてである。利用者様や職員向けに、実際
に鑑賞してもらった感想等を述べる。

三つ目は、Google が提唱している vr180 という
仕様に準拠した映像を制作し、ヘッドマウントディ
スプレイを用いて、利用者様や職員向けに、バー
チャル的なグループホームの生活体験をしてもら
い、その反応等からみえることを考察した。

- ① 指筆談を用いたコミュニケー
ション方法の実践
- ② 自主上映会
- ③ ヘッドマウントディスプレイを
使用したバーチャル的なグルー
プホームの疑似体験

図 活動の内容

3.指筆談の実践

今回の研究活動援助事業で取り組んだ指筆談
は、数年前より佐田と小林が学んできたものであ
る。主に國學院大学の柴田教授が活動し、取り組
まれているコミュニケーションの手法である。この
手法を、細々と続けてきた私たちの取組みを、昨
年度、津久井やまゆり園の園内研修である職員
意見発表会にて発表をした。そのことがきっかけ
となり、今回の研究に至った。

活動の目的で述べた通り、「利用者様の心の声
をもっと聞きたい」、このことをどうやったら実現で
きるのか、という思いを持ち続けていた。そこで、
一つの可能性として指筆談を取り上げ、研究して
はどうかということになり、今回、研究活動援助事
業として取り組んできた。

(1) 筆談とは

筆談と言われると、一般的には耳の聞こえない方とのコミュニケーションをイメージするだろう。しかし、今回紹介する筆談は、援助者が、当事者の手の甲を持ち、ご本人の微妙な手の動きをつかみながら、必要なだけ力を添えて、一緒に書くコミュニケーション手法である。文字を覚えるためや、鉛筆を持てない方のために、一緒に文字を書く作業とはまるで違い、今ご本人が持っている考えや思いなどといった内面を表出する方法である。

【筆談とは】

本人の微妙な手の動きをつかみながら、必要なだけ力を添えて、援助者と当事者が一緒に書くコミュニケーション方法。



図 筆談

(2) 指筆談とは

指筆談は筆談と方法は一緒であるが、紙とペンは使用せずに、手のひらや指先にご本人の指で書くコミュニケーション方法である。

【指筆談とは】

筆談と方法は一緒。
紙とペンを使用せず、手のひらや指先等に指で書く方法。



図 指筆談

この筆談や指筆談は、かながわ共同会の利用者様はもちろんのこと、すべての利用者様を対象とすることが可能である。ただし、科学的にも証明

されているとは言えず、この手法を行うと、援助者が書いているように見えるため、本当にご本人が書いているのか疑われやすい。

しかし、特に中途障害の方への指筆談では、家族しか知らないことを聞き取っている事例が多数ある。そうした家族を通して徐々に広まってきているコミュニケーション方法である。

ここで、今回の実践の協力者を紹介する。國學院大学の柴田教授は、重度の障害児のコミュニケーションツールを研究開発されてきた方である。

○協力者紹介

國學院大学人間開発学部

柴田 保之 教授



1958年大分県生まれ。東京大学教育学部教育心理学科を卒業後、同大学大学院を経て、1987年より國學院大学人間開発学部勤務、現在に至る。専門は重度・重複障害児の教育の実践的研究。著書に『みんな言葉を持っていた』（オクムラ書店）、『沈黙を越えて』（萬書房）などがある。

図 協力者

指筆談を実践するにあたり、佐田と小林の二人で実践しても良かったが、利用者様のことを知らない第三者として柴田教授に加わってもらい、読み取った内容を比較することで、客観性を担保すること目的として、協力を依頼したところ、快く引き受けていただいた。

(3) 実践内容

実際の実践内容であるが、対象となる利用者様に対して、3人の実践者が同じ内容の質問を口頭で質問し、指筆談を用いて質問の回答を得て、その回答から得られたことを比較し、考察した。

質問方法は、回答を限定する質問、いわゆる「クローズド・クエスチョン」と、回答の範囲を制限しないで、回答者が自由に考えて答える質問方法である「オープン・クエスチョン」の2つを用いた。

一つ目は、導入部分で利用者様がリラックスできるように質問を作成した。

二つ目は、利用者様の思いを知るために、思

いを語ってもらえるような質問を作成した。

そして、この二点を合わせて「現在」「過去」「未来」に分けた質問を作成した。現在に対する質問は、現在の思いを知るための質問内容となっている。過去に対する質問は、実践者が知らないことを回答してもらうような質問内容となっている。そして、未来に対する質問は、ご本人が今考えている将来のことについての質問内容となっている。

対象とした利用者様は、5名である。いずれの方も、この研究活動以前に、指筆談を経験している利用者様である。また、指筆談の実践者は、協力者である柴田教授を含めた3名である。

○利用者様	Aさん（38歳・女性） Bさん（61歳・女性） Cさん（41歳・女性） Dさん（78歳・女性） Eさん（60歳・男性）
○実践者	柴田 保之（教授） 佐田 恵利子（支援員） 小林 恵里加（支援員）

図 対象利用者と実践者

(4) 質問内容

以下が、対象となる利用者様に実際に質問をした内容である。

○ 事前質問

- 質問 1 平日と土日の休日、どちらが好きですか？
質問 2 肉と魚、どちらが好きですか？
質問 3 みかんとリンゴ、どちらが好きですか？
質問 4 春、夏、秋、冬、どの季節が好きですか？

事前質問では、利用者にリラックスしてもらうために、クローズド-クエスチョンとした。

○ 「現在」のことについての質問

現在のことについて

- 質問 1 一番、楽しいことはなに？
質問 2 一番、好きな人は誰ですか？
質問 3 職員に聞いてもらいたいことは何ですか？
質問 4 ともだちと普段どんな話をしていますか？

ご本人たちの好きなことや、職員に聞いてもらいたいこと、生活の中での利用者間のコミュニケーションについて質問をした。

○ 「過去」のことについての質問

過去のことについて

- 質問 1 こどものころ何をするのが好きでしたか？
質問 2 お父さんの好きなところはどこですか？
質問 3 お母さんの好きなところはどこですか？
質問 4 お母さんの作ってくれた料理で一番好きな物は何ですか？
質問 5 こどものころの一番楽しかった思い出は何ですか？
質問 6 こどものころの一番つらかった思い出は何ですか？
質問 7 海に行ったことはありますか？

特に、幼少期の頃のこと、両親のことを中心に質問をした。

○ 「未来(将来)」のことについての質問

未来（将来）のことについて

- 質問 1 誰と暮らしたいですか？
質問 2 どんな所で生活したいですか？
質問 3 楽しみにしていることは何ですか？
質問 4 行ってみたいところはどこですか？
質問 5 将来やってみたいことは何ですか？

特に意思決定支援の取組みに付随するような質問内容とした。

(5) 実際の指筆談の様子

以下の写真が、実際に指筆談を行っている様子である。こちらは、すべて動画として記録をした。



図 指筆談の様子

対象となった利用者様の一人ひとりから読み取った実際の結果については、後述の資料編にまとめた。

(6) 実践結果について

【実践結果について】

①意外と一致している面もあれば、一致していない面もあった。(下の表は、一つの事例)

質問内容	実践者 (柴田 保之)	回 答 内 容 実践者 (佐田 恵利子)	実践者 (小林 恵里加)
質問 3 お母さんの好きなところはどこですか？	優しく頑張り屋のところ	母は、いつも優しいところ。	母は、皆がこうしてほしいと思うようなことに気づいてくれました。皆は、そんな母が大好きでした。
質問 4 お母さんの作ってくれた料理で一番好きな物はありますか？	外食が良かったけれど、ソース焼きそばにきります。		カレーライス
質問 7 海に行ったことはありますか？	あります。	ある。	はい、あります。こどもの時によく連れて行ってもらいました。すごく楽しかったのを覚えています。

②実践者から対象者への、質問内容を統一したが、限られた時間の中で、きちんとした実践ができなかった。

図 実践結果について

資料編にもまとめたが、表中のマスで、ピンク色に塗りつぶした部分は、回答内容が一致しているとみなした部分である。また、黄色く塗りつぶしている部分は、回答内容のニュアンスが、概ね一致しているとみなした部分である。

実践者から対象となる利用者様へ、質問内容を統一して実施したが、限られた時間の中で、全員分の実践を漏れなく実施することはできなかった。

実践者からの感想としては、佐田、小林からは「緊張して読み取れない」という、最初の出だしが上手いかわないことがあった。

ここで、実践結果を端的にみると、意外と一致している面もあれば、一致していない面もあった。

そして、回答内容が一致していたりする点があることは、驚きであったし、3人の実践者の読み取った内容が、ほぼ一致している部分もあったことは更に驚かされた。

実践者によるかどうか分からないが、一人の利用者様からの回答で、それぞれの実践者の読み取りにおいて語尾が異なっていることがあった。本人のしゃべり口調だと思うが、語尾が気になる人もいるだろう。

また、実際には、質問数が多かった。時間的なことも含めて、質問数や質問内容を検討した方が良かった。

人によって読み取りやすい人とそうでない人がいたのかどうかについては、読み取りやすいということはあると思うが、環境の影響の方が大きいと感じた。

(7) 結果の考察

一致している結果もあれば、一致していない結果もあり、その原因を考えたときに、「環境から受ける影響」と「質問数とその内容の影響」があるのではないかと考えた。

「環境」には、指筆談を実施した日時、場所、実践者と利用者様との関係性、実践者及び対象者のそれぞれのコンディションが上げられる。

今回の実践結果について、いつ、どのような場所で、どのように実践したかについて詳細を示していないが、昨年度の 11 月頃から実施し、会議室や寮、午前もしくは夕方、夜間など一定した実践環境ではなかった。こうした環境の違いは、変化に敏感なところがある利用者様には、影響が大きかったのではないだろうか。

私たちに置き換えて考えても、環境に影響されることはよくあることだろう。例えば、話をする人によって、緊張して思ったことを言えなかったり、上手く答えられなかったり、何となく返答したり、ひらめきで話をしたりと様々だと思う。

そのような意味からも、実際に実践をしていくなかで、環境や質問内容等にすごく不十分さがあったと感じている。だからこそ、一致している部分があれば、一致していない部分もあり、証明できたというような気持ちにもならないし、かといって嘘じゃないかという気持ちにもならなかったのは事実である。

(8) 実践のまとめ

- ① 実証することが目的ではないが、心の声を聴く方法としての一つの可能性がここにある。
- ② 確率論的に、回答が一致しない場合が多いなかで、一致する回答もあったことに對して皆さんはどのように感じますか？

もともと私たちの実践では、指筆談の実証が目的ではなかった。利用者様の心の声をどうやら聴けるのかという点で、その方法として、指筆談は一つの可能性ではないかと感じていた。だからこそ、このような実践にチャレンジしてみよう、という思いに至ったのである。

当初から実証することの難しさを柴田教授からも伺っていたが、考察でも述べたように、いろいろな環境からの影響の大きさを、今回の実践で実感できた。

客観的な立場として、指筆談を実践している場面を見たときに、利用者様の一人ひとりが真剣な表情で回答しているように感じた。もしその利用者様を全く知らない第三者だったとしたら、そう感じなかったかもしれない。少しでもその利用者様に関わったことがある人であれば、普段の様子も知っているのだから、普段の様子と比較しながら指筆談を行っているときのご本人の変化にも気付くことで、このような感じ方になったのではないかと考える。

そして、○か×かの質問を設定し、一人の人に対して実践者が3人の場合、3人とも一致する確率は $1/8$ (12.5%)である。更に、質問に対して自由に回答した場合に3人とも一致する確率は、更に低くなる。今回の研究では、前述のような低い確率にもかかわらず、一致するような結果を得る場合があった。

私たちが注目したいのは、この「一致した場合があった」ということである。3人とも一致した結果が出ることで、驚きとともに、どういうことなのだろうという不思議さを感じずにはいられなかった。ここにこそ、先に述べた可能性の一つがあるように思う。

何度も述べたが、実証することが目的ではないなかで、読み取ったことを文章にし、それを比較してみると、このような不思議な結果がある。このこと

について、皆様はどう感じるだろうか。

何か、皆様が少しでも興味を持ってもらえるきっかけになれば、この実践に意味があったと考える。

(9) 購入書籍

参考資料として以下の書籍を購入しました。

- ア 「みんな言葉を持っていたー障害の重い人たちの心の世界」／柴田 保之 (著)
- イ 沈黙を越えて：知的障害と呼ばれる人々が内に秘めた言葉を紡ぎはじめた／柴田 保之 (著)
- ウ 「最重度の障害児たちが語りはじめるとき」／中村尚樹 (著)
- エ 「本当の気持ちと出会うときー知的障がい者入所支援施設 30 年の実践を語り・伝える 見えないところとところを紡ぐ意思決定支援 43 の物語ー」／宮下 智 (著)



図 購入書籍

4. 啓発活動(映画自主上映)

今回、「僕のうしろに道はできる」というドキュメンタリー映画の自主上映会を開催した。



図 「僕のうしろに道はできる」のホームページより

(1) 上映の経緯・趣旨

- どのような状態になっても意思があることを証明した一つの事例
- 意思を汲み取るためにあらゆる分野の知識や情報を集めた内容
- 鑑賞された方への気付きを期待

このドキュメンタリー映画は、どのような状態になっても意思があることを証明した一つの事例として描かれている。また、意思を汲み取るためにあらゆる分野の知識や情報を集めた内容でもある。

実際に私たちも鑑賞し、利用者様の支援に日々あたっているなかで、「もっと知りたい」という仕事への活力にもなった。また、支援者側がゆっくりでも努力し続けていることを伝えない限り、支援される側はどこかで諦めてしまうということの重大さに衝撃を受けた作品でもある。

鑑賞された一人ひとりの方が、何か気付きを得られればとの期待を込めて、自主上映会を開催した。ちなみに、上映会を開催するにあたり、配給元から特別に、映画のDVDを譲渡していただいた。



図 DVD パッケージ画像

(2) 上映スケジュール

上映スケジュールは、以下の通りである。

○利用者様向け

1月25日（金）13：30～ 体育館

○職員向け

1月25日（金）職員会議終了後

1月26日（土）15：30～

1月28日（月）15：30～

1月29日（火）15：30～

1月30日（水）15：30～

1月31日（木）15：30～

※いずれの回も芹が谷園舎会議室で上映

(3) 上映参加者とアンケート

自主上映会では、利用者様と、職員に鑑賞していただいた。利用者様へ1回、職員向けに6回実施した。

実際に参加された利用者様は 38 名、職員は 31 名（職員の内訳は、総務課事務員3名、相談支援従事者2名、生活課支援員 10 名、日中活動支援員 10 名、看護師3名、オンブズパーソン2名、法人事務局職員1名）であった。

職員の方々には、映画を鑑賞後に感想を書いてももらった。感想としては、批判的なものではなく、それぞれの立場での気付きが書かれていた。また、利用者様からは「また見たい」との声が複数聞かれた。

以下に、感想をまとめたものを掲載する。

○アンケート回答者：17 名

- ア 話せなくても身体が不自由でも伝えたい思い・意思は誰にでもあることを改めて認識させられた。(6名)
- イ あきらめずに信じ続けることが大切だと感じた。(9名)
- ウ 簡単ではないが、些細な動きにも注目し、表現方法を見つける努力をあきらめないことが大切だと感じた。奇跡ではなく、あきらめずに努力をし続けた結果。(6名)
- エ 伝えたいのに伝えられないもどかしさや悲しさは、障害あるなしに関係なく同じであることを忘れてはいけないと感じた。(1名)
- オ 「見る」「立つ」「話す」「触れる」のユマニチュードに共通するものがあると感じた。(1名)

- カ 人間の能力、生命力(2名)
- キ 医師から言われたこと(回復の見込みない)を信じなかったことに考えさせられた。専門家の言うことが 100%間違いないとは言っていない実例。(1名)
- ク 過去は参考にするものであり、未来や可能性を信じることを意識していきたい。(1名)
- ケ もっと知りたい。まだまだ知らないことがあることを知った。考えさせられた良い機会となった。(3名)
- コ 相手の気持ちを知りたいと思うことも大切(1名)
- サ 刺激を与え続けることの大切さを知った。(1名)
- シ 最初はどの見ても回復しないだろうと思っていたのに、回復していった姿に感動した。(1名)
- ス 決めつけずに関わっていくことが大切だと思った。(1名)
- セ 焦らず、マイペースに取り組むことが大事(1名)

5.VRによる活動(VRグループホーム体験)

この活動は、ヘッドマウントディスプレイを使用したバーチャル的なグループホームの疑似体験についてである。

VRによるグループホーム体験は、利用者様への分かりやすい情報提供として有効かどうかを知るために、臨場感のある映像を制作し視聴してもらった。職員にも、実際に体験してもらい、それぞれの反応からみえることを考察した。

(1) 被験者数

○ 利用者様 7名

A 様	男性	67 歳	障害支援区分 5	歩行自立
B 様	男性	23 歳	障害支援区分 5	歩行自立
C 様	男性	21 歳	障害支援区分 6	歩行自立
D 様	男性	41 歳	障害支援区分 5	歩行自立
E 様	女性	71 歳	障害支援区分 5	車椅子使用
F 様	女性	41 歳	障害支援区分 5	歩行自立
G 様	女性	76 歳	障害支援区分 5	車椅子使用

○ 職員 14 名

(2) 使用した機材

バーチャルリアリティーの映像を制作する機材「Vuze XR Dual VR Camera」である。制作した映像を映し出す機器であるヘッドマウントディスプレイ「Oculus Go」は、今回の研究活動援助事業として購入した。



図 使用した機材

(3) VR180 の映像

VR180 の映像原理は、以下の通りである。
Google が提唱している VR180 (<https://vr.google.com/vr180>) に準拠した映像を制作する。右目用と左目用のカメラで撮影し、目と目の間の視差(3.5 cm～4cm)を加えて、正距円筒図法に基づき映像をソフトウェアで補正すると2画面の映像が得られる。

得られた映像を、ヘッドマウントディスプレイを用いて視聴すると、前方 180 度の視界が立体的に視えることで、臨場感のある映像体験となる。



図 正距円筒図2画面の画像



図 ヘッドマウントディスプレイによる見え方(イメージ)

映像は、その場所にいることが体感できるように制作した。映像自体は約 4 分 30 秒あり、まず、目を慣らす必要があるため、冒頭に CG アニメーションを挟んである。

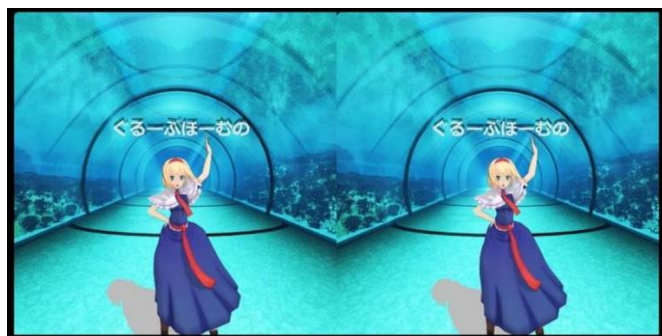


図 冒頭の CG アニメーション

いきなり知らない場所において、知らない人が隣に座っている状況となるため、ナレーションによる音声ガイドを入れて、混乱を招かないよう配慮した。また、視聴によるVR酔いを防ぐため、撮影はカメラを固定して行った。

(4) 映像体験



図 VR 体験時の映像

Oculus Go (オキュラスゴー) を実際に装着する

と上図のようになり、顔面の半分程度が覆われるため体験中の記録映像はボカシ等を入れていない。VR180 を利用した映像を視聴すると、被験者が職員の場合は、上下左右を見回す動作をする傾向が顕著に見られる。ところが利用者様が視聴した場合は、反応が薄い印象を受ける。しかし、利用者様の側で職員が声をかけてガイドしたり、繰り返して視聴するうちに理解が深まっていくようになる様子であった。微妙な変化なので、それぞれ体験している利用者様を知っている職員でないといと分かりづらい面がある。

(5) 利用者様の視聴前提

体験された利用者様の前提として、以下を上げる。

- ア グループホームの内部を見たことがある。
- イ グループホームで生活している方々を知っている。
- ウ 通所事業所を利用したことがある。
- エ グループホームや通所事業所をまったく知らない。

(6) 実践の考察

実践してみてわかったことを、以下にまとめた。

- ア まったくその場を知らない方には、理解が難しい場合がある。
- イ 繰り返し視聴することで理解が深まる印象を受けた。
- ウ 視聴している方の隣で、今、何を見ているのかガイドすると理解が深まる印象を受けた。
- エ 車椅子で生活している方には、手軽に体験してもらうことができる。
- オ 一度見学に行っておき、再体験として視聴すると、同居の方、食事場面の情報提供として有効であると思われる。
- カ 個々のグループホームごとに VR の紹介ビデオを作成するとなれば、新たなビジネスチャンスが生まれる可能性がある。

6.まとめ

- どんな人でも意思を表明する力を持っている。
- どんな手法でも環境からの影響を受ける。
- 利用者様の心の声を聞けるかどうかは、聞き手の力量にかかっている。
- だからこそ、常に高みに向かって歩んでいこう。
- 利用者様と向き合いながら、寄り添いながら支援を続けます。

指筆談での実践でも考察したが、環境から受ける影響があるということは、普段の支援の中でも誰もが感じる事だろう。また、支援者がどのような価値観を持っているかによっても、支援内容は左右されるだろう。

環境から受ける影響は、まさに、どんな手法を使っても同じことが言えるのではないだろうか。どれだけ良い手法だとしても、それに携わる人の力量によって結果は変わる。

だからこそ支援者は、常に高みを目指して、自身の感性を磨き、研修を受けるなどして、自身を高め、そして、利用者様と共に歩んでいくのだと考える。ある意味、それが福祉の実像だといえよう。このことは、意思決定支援においても同様のことが言える。

今回、私たちは意思決定支援を取り組みながら、「一人ひとりの声をどうやったら聴けるのか」「何が正解かを求めるものではなく、一つの可能性を探る」という目的で、この研究活動に取り組ん

できた。

支援付意思決定プログラムのトレーナーであるシェア・ニコルソン氏が次のようなことを述べている。

「どんな人にも意思表示の力がある」

この言葉をかりて、またこれを大前提として一年間取り組んできた。

このことは、普段、利用者様の支援の中で誰もが行っていることと同じことである。利用者様の思いが、「こうじゃないかな」「この人はこう言っているんじゃないかな」と探りながら支援をされているのではないだろうか。

私たちも、一人の支援者として、利用者様と向き合い、そして寄り添いながら、今後も支援を続けていく。皆様にとっても、この報告が何かのきっかけや気付きになれば幸いである。

研究メンバーとして、とても有意義な取り組み期間を送ることができ、様々、協力していただいた方々に感謝を申し上げたい。

7.資料編

(1) シェア・ニコルソン

:障害者権利条約の理念をそのまま実践しようとするオーストラリア・南オーストラリア州の支援付意思決定プログラム(S.A-SDM)のトレーナー

「どんな人でも意思を表明する力を持っている。言葉をうまく話せない人にも意思はあるのです。でも、その夢や希望をくみ取ることができるかどうかは、聞き手の力量にかかっています。」

Yahoo ニュース 特集「本当は何を望んでいるの？」～認知症高齢者 その意思はどこに(2017.10.26 配信) <https://news.yahoo.co.jp/feature/795> より抜粋

(2) 指筆談の新聞記事(毎日新聞より)

※ 2018年(平成30年)7月28日(土)

毎 日 新 聞

横浜市内に仮園舎を置く障害者施設「津久井やまゆり園」で、重い障害がある利用者との意思疎通を問い直す動きが出ています。職員の中には、利用者が動かす指やペンの僅かな動きを手を添えて通訳する「筆談」に可能性を見いだす。筆談を支援の枠組みに取り入れる動きはまだないが、園内では活動に共感も広がっている。

6月、利用者とグループホーム（GH）の見学に行った帰りのバスの中で、ある女性職員は女性利用者の隣に座り、優しく手を引き寄せた。「（GHの）イメージが変わった。いい印象でした」。利用者の指がたどる筆跡を手のひらに感じた。見学は今後の暮らしのあり方を決めていく「意思決定支援」の一環でもあった。

女性職員が試したのは「指筆談」と呼ばれる手法で、取り組んで4年ほどになる。国学院大の柴田保之教授が当事者同士の指筆談による交流会を開いていることを知り、園の利用者や職員と一緒に参加した。

柴田教授が重度障害を抱える人たちの手を取り、雄弁に通訳をしていく。同行した利用者は当初、部屋にも入りがたくなかったが、指筆談で「思いをくみ取ってくれるんだ」と通訳され、状態も落ち着いていった。女性職員は「頭が大混乱。衝撃だった」と話す。

筆談や指筆談には、科学的根拠に乏しいと批判する声もある。女性職員も懐疑的だったが、集中的に習い始めた。最初は「あ」の書き方から始まり、平仮名を理解すると、今度は「いちご」「みかん」など選択肢を増やした。手のひらに集中させる作業に神経をすり減らす日々。1カ月目には白紙の状態から単語を理解できる手応えを得た。

不安もあるが、支援の姿勢が変わったと感じている。利用者に語りかけることが自然と増え、僅かな表情や視線にも注目するようになった。ある利用者の手を取ると、「自分は嫌われているのかも」と、手のひらでうち明けてくれた。「そんなことないよ」。大きな誤解だった。忘れかけていたごく当たり前の意思疎通を取り戻した気がした。

昨秋、同じく指筆談に取り組む同僚と、園職員を前に共同発表した。タイトルは「『言えない気持ち』に手を添える」。「利用者は私たちを見ていて」と伝えたかった。

発表を聞いた入倉かおる園長は、支援のあり方を考えさせられたという。自らもGHで暮らし、寡黙な利用者や、絵や文字を通じて交流を続けている。入倉さんは「利用者の気持ちをとくくみ取るか、職員は地道に取り組んでいる」と話す。

【堀和彦】

先月、外出中の車内で利用者の手を握って指筆談をする職員（津久井やまゆり園提供）

障害者の僅かな動き通訳

やまゆり園職員 手応え

(3)指筆談の実践結果

Aさん（38歳・女性）		回答内容		
【事前質問】				
質問内容		実践者（柴田 保之）	実践者（佐田 恵利子）	実践者（小林 恵里加）
質問1	平日と土日の休日、どちらが好きですか？	土日	好きというのはとっても難しい質問ですね。どちらも好きなのでどうしよう。	平日が好きです。
質問2	肉と魚、どちらが好きですか？	魚	どちらも好きですが、お肉の方がやはり食べたい衝動にかられることが、多いように思います。	—
質問3	みかんとリンゴ、どちらが好きですか？	みかん	みかんの方が断然好き。食べやすいのと触感。みかん。	—
質問4	春、夏、秋、冬、どの季節が好きですか？	夏	春か秋。どうしても夏は嫌です。どちらかというとき寒い方が好き。春、秋、冬、夏の順番で好き。	—

Aさん（38歳・女性）				
【現在のことについて】				
質問内容		回 答 内 容		
		実践者 (柴田 保之)	実践者 (佐田 恵利子)	実践者 (小林 恵里加)
質問 1	一番、楽しいことはなに？	ごちそうを食べること	おでかけ。なんでもいいから外に出るとワクワクする。	こうしてお話をしているとときです。
質問 2	一番、好きな人は誰ですか？	お母さん	それは困る。	今、好きな人は、関ジャニの村上です。
質問 3	職員に聞いても聞きたいことは何ですか？	心の声	もっと皆に言葉があることを知ってほしいことが一番の願いですが、そういうことを勉強しているということを教えてほしい。職員が何をしているのかを知りたいなど感じることもある。どういうことを私たちにしてくれようとしているのかを知れると凄くうれしい気持ちになるので、是非そういうことを一つ一つ教えてもらえるとすごく張り合いが出る。誰かが落ち着かない時とかも、こういうことを考えているのだと教えてくれると嬉しい。皆が、ほったらかしにしている訳じゃないのは、最近よくわかってきたのですが、どうしようとしているかまで教えてもらえると嬉しい。	いつもお話をしたいと思っているけれど、どうしたら伝えられるかと考えています。皆そうじゃないかな。
質問 4	ともだちと普段どんな話をしていますか？	頑張ること	元気？とかそういうのは良くしていますよ。目で見て分かるし、顔を見ても分かるし、そういう感じを職員さんもちったらどうかな。表情を見たら分かる気がするのだけだな。〇〇さんは、本当に良く顔を合わせて話をしますよ。〇〇さんの言葉が多くなっているのは、すぐく見ていてうれしいし、それを伝えようと思って念を送ってみたりしているのですが、ちゃんと受け取ってくれているのが分かります。職員さんは、そういうのは感じない？楽しい。そういうものですよ。	皆と一緒にここ見てとかここで暮らしたいとか

Aさん（38歳・女性）				
【過去のことについて】				
質問内容		回 答 内 容		
		実践者 (柴田 保之)	実践者 (佐田 恵利子)	実践者 (小林 恵里加)
質問 1	こどものころ何をするのが好きでしたか？	涙を拭いてあげること	海に行ったり、バーベキューをしたりすることがすごく楽しかった思い出としてあるのですが、何をしていたかまではよく思い出せない。同じことしかしていないと思う。	こどものときは、いつも自然と話したりしていました。
質問 2	お父さんの好きなところはどこですか？	優しいところ	好きなところは、いつもお母さんから、お母さんのことをいつも心配してみている優しいところが好き。お母さんのことを大事に思ってくれていることが、すごく分かるので嬉しいです。あとは、面白いところ。ダジャレばかり言う。まったくお父さんはよく言っている。弟。	お父さんの好きなところは、いつも遊んでくれたところが好きです。皆と一緒にすごすかな。
質問 3	お母さんの好きなところはどこですか？	どんな時も明るいところ	それは明るくて元気なところが一番好き。おしゃべりが好きで止まらなくなるときがあるけれど、それが可愛いと思うのは泉だけです？お母さんのおしゃべりは迷惑をかけるときもあるけれど、皆を明るくしていると思うのだけれどなあ…	お母さんとは、いつも静かなところで一緒に、こみかいたいところでご飯を作ったり、お風呂に入ってくれます。そういうふうに一生懸命してくれるところが好き。
質問 4	お母さんの作ってくれた料理で一番好きな物は何かですか？	カレーライス	肉じゃが	—
質問 5	こどものころの一番楽しかった思い出は何ですか？	お母さんと一緒に出掛けたこと	楽しかったのは、皆で外に行くことです。海に行ったり、バーベキューをしたり、海に行ったりするのが、一番好きでした。	こどものときは、皆と違うなと感じていました。皆は、皆で遊んでいたけれど、〇〇は、皆とは違ったから、いつも皆のことを見ていました。どこで遊んでいるのかをみていました。そういう思い出があります。
質問 6	こどものころの一番つらかった思い出は何ですか？	お母さんが私のことで泣いていたこと	そうだなあ。一番というよりは、皆の側にいれなくなることでした。が、どうしても髪の毛が気になったりするので、それが理由で離れることが一番悲しいことだった。仕方ないとも思っていました、悲しい気持ちはありました。悲しことだけれど、つかんでしまうことの方が悲しいことだから、放してもらった方が、気持ちが楽だったことも事実です。	辛いと思うことはありましたが、のことで喧嘩している家族をみることが辛かった。
質問 7	海に行ったことはありますか？	あります。	ありますよ。どこにでも連れて行ってくれたのが、父と母の好きなところでした。ドライブです。	海の記憶は、あまり記憶にないのでみたことはないかも。

Aさん（38歳・女性）

【未来（将来）のことについて】

質問内容		回 答 内 容		
		実践者 (柴田 保之)	実践者 (佐田 恵利子)	実践者 (小林 恵里加)
質問 1	誰と暮らしたいですか？	仲間と暮らしたい。	誰というのは、家族とかですか？そういうのはとっても難しい質問です。〇たちはあんまり選んでだりしてきた人生ではないので、どうしてほしいとかというのは、結構、難しいです。それは、もちろん家族と住みたいのが一番ですが、それができないからここにいるのだと理解しています。そしたらどうしてそういうことを聞きますか？何のための質問ですか？何となくの質問だったら少し嫌な質問かもしれません。他の人にとっても。	これから皆と暮らしたいと思っています。皆とは〇寮です。
質問 2	どんな所で生活したいですか？	やまゆり園	誰も同じですが、一度、ここで暮らしている仲間と一緒にいることができたと思います。どうしたら同じ共にこの先も同じ場所で暮らしたいのが〇の一番の願いです。〇にとっては初めての泊まる場所でした。ここで皆の仲良くなれたのがすごくうれしいことなのでそれをずっと続くことが一番の願いです。 ホームは辛い誰も怪我したりせずにきましたが、津久井やまゆり園で起きた事件のことを思うとそんなことを言うてはいけないのではないかと感じるのですが、それでもできるだけ皆と一緒にいたいのが〇の切なる願いです。	どんなところがあるかわからないから、答えづらいです。
質問 3	楽しみにしていることは何ですか？	新しいやまゆり園で皆ともう一度楽しい生活を送ること	楽しみにしているのは、皆がこうして一つ一つ指談が広がっていくのが楽しみ。何よりの願いですが、すごいことが起きていると感じています。指談を初めてしてもらったときのことを今でもよく思い出しますが、青天の霹靂とはこのことだと感じた。驚いてしまっただけでよかったのではないかと思います。あの時の感動と驚きが今も焼き付いているのですが、この奇跡のような指筆談の難しさも同時に感じています。世の中がどれだけ信じて向き合ってくれるのか、こういう時代ですから事件のことともそうですが、指筆談による言葉が届かないのは当然のことのように思います。そんな中でまさかこうして取り組んでくれる人たちがいることは、本当に驚くべきことだと思っていますし、そんな職員がいるこの津久井やまゆり園は素晴らしいと思い、誇りに感じています、この発表がどのような形で完成していくのかが、楽しみです。是非、聞かせて下さいね。	皆でこうして話をしたりすることが楽しみ。
質問 4	行ってみたいところはどこですか？	お母さんのところ	それが一つあります。飛行機に乗りたいのですが。乗ったことない。見たから乗りたい。あの時、間近で見てからもう一度見てみたいし、できれば乗りたい。	ここに来たのは引越して来たので、普通に横浜に行ってみたい。
質問 5	将来やってみたいことは何ですか？	お母さんを大事にすること	なんだろうな…難しい。	将来については、海に行って、貝殻を見つけて、持って帰りたい。

Bさん（61歳・女性）

【事前質問】

質問内容		回 答 内 容		
		実践者 (柴田 保之)	実践者 (佐田 恵利子)	実践者 (小林 恵里加)
質問 1	平日と土日の休日、どちらが好きですか？	平日	—	—
質問 2	肉と魚、どちらが好きですか？	肉	—	—
質問 3	みかんとリンゴ、どちらが好きですか？	リンゴ	—	—
質問 4	春、夏、秋、冬、どの季節が好きですか？	夏	—	—

Bさん（61歳・女性）

【現在のことについて】

質問内容		回 答 内 容		
		実践者 (柴田 保之)	実践者 (佐田 恵利子)	実践者 (小林 恵里加)
質問 1	一番、楽しいことはなに？	音楽を聴くこと	楽しいことは何でしょうか。皆が笑顔でいることが楽しい。一番楽しいでなかなかないですが、でもやはり笑顔があふれる空間にいるのが一番幸せな気持ちになります。	一番は難しいですが、嵐のDVDを見ているときです。
質問 2	一番、好きな人は誰ですか？	—	難しいですが、それはやはりいつも来てくれる兄や妹です。あんな体が不自由になっているのにニコニコと来てくれるので有難いし、愛しているなど感じます。	好きなのは、嵐の大野くん。
質問 3	職員に聞いてもらいたいことは何ですか？	頑張っていること	発表会で発表したことを聞いてどう思ったのか知りたいです。どういう発表をしたのかも知りたいです。	いつも感謝していることです。
質問 4	ともだちと普段どんな話をしていますか？	ともだちに懐かしい思い出をきいてもらう。	それは、言っていないのかしら。皆、話しているのよ。これが最近凄くて、皆の言葉がどんどん入ってくるという感じです。例えば、これからどういうことが起こるのかとか、この先どうなっていくのかとか、皆、心配や不安な気持ちを伝えてくれます。その時は、大丈夫と答えているのですが、本当は、もう少し心配です。そういえば、そうした説明がもう少しほしいなと思います。聞きたいことはそれも加えて下さい。	普段、皆とは天気の話だったり、ご飯の話だったり、たくさんのお話をしています。特に、これといった内容じゃなくて、日常会話です。

Bさん（61歳・女性）

【過去のことについて】

質問内容		回 答 内 容		
		実践者 (柴田 保之)	実践者 (佐田 恵利子)	実践者 (小林 恵里加)
質問 1	子どものころ何をするのが好きでしたか？	音楽を聴くこと	子どものころにはもう体が思うようにいかなかったのですが、そういうなかでも、兄や妹たちと絵や文字を書いて過ごしていることがあったのですが、それが今、指筆談と同じ。	小さい子と一緒に皆の顔を見ていました。見ていることでこんなふうになれたらなと思っていました。
質問 2	お父さんの好きなところはどこですか？	優しいところ	お父さんのことは、大好きです。そうですね、一番はいつも優しく、頼もしいのが好き。	父は、とても強かったです。体力的にも精神的にも。そんな父が好きでした。
質問 3	お母さんの好きなところはどこですか？	いつも明るいところ	仲がいい。と似ているのです。顔だけでなく、性格もそっくり。どんなことにも負けないで乗り越えていく。	母は、よく面白いところがあり、それを見ていると私まで笑ってしまう、そんな母がとても好きでした。お母さんも皆のことが好きで、とても好きの気持ちが伝わってくるようでした。
質問 4	お母さんの作ってくれた料理で一番好きなものは何ですか？	お花の形のお寿司	煮魚	ロマンティックな人だったので、子どもが好きそうなものだけでなく、色々を作ってくれました。その中でも皆が好きなものは、水餃子です。
質問 5	子どものころの一番楽しかった思い出は何ですか？	お母さんと旅行したことです。	—	子どものころはいつも見ることが多かったので、ミミズを見て土からクニョクニョしている・・・
質問 6	子どものころの一番つらかった思い出は何ですか？	皆と一緒に学校に行けなかったこと	—	—
質問 7	海に行ったことはありますか？	はい	—	—

Bさん（61歳・女性）

【未来（将来）のことについて】

質問内容		回 答 内 容		
		実践者 (柴田 保之)	実践者 (佐田 恵利子)	実践者 (小林 恵里加)
質問 1	誰と暮らしたいですか？	ともだちと暮らしたい	—	—
質問 2	どんな所で生活したいですか？	やまゆり園	—	—
質問 3	楽しみにしていることは何ですか？	皆とこのやり方で語り合うことです。	—	—
質問 4	行ってみたいところはどこですか？	お母さんのいるところに行ってみたい。	—	—
質問 5	将来やってみたいことは何ですか？	こうやって皆と話すこと	—	—

Cさん（41歳・女性）

【事前質問】

質 問 内 容		回 答 内 容		
		実践者 (柴田 保之)	実践者 (佐田 恵利子)	実践者 (小林 恵里加)
質問 1	平日と土日の休日、どちらが好きですか？	土日	平日の活動がある方が好き。	—
質問 2	肉と魚、どちらが好きですか？	肉	魚が好きです。	—
質問 3	みかんとリンゴ、どちらが好きですか？	みかん	リンゴが好きです。	—
質問 4	春、夏、秋、冬、どの季節が好きですか？	夏	秋	—

Cさん（41歳・女性）

【現在のことについて】

質問内容		回 答 内 容		
		実践者 (柴田 保之)	実践者 (佐田 恵利子)	実践者 (小林 恵里加)
質問 1	一番、楽しいことはなに？	皆といること	一番楽しいことは、音楽に合わせて体を動かすこと。	—
質問 2	一番、好きな人は誰ですか？	皆な好きだけど、特に好きなのはお母さん	家族と今の職員さんが好き。怖いときもあるけれど、基本的には優しいと最近分かってきたので、楽しい。	—
質問 3	職員に聞いてもらいたいことは何ですか？	私たちの本当の心の声です。	これは職員に何をしてもらいたいということでもいいですか。皆の意思があるということをお願いしたい。何よりの一番の聞いてもらいたいこと。	—
質問 4	ともだちと普段どんな話をしていますか？	懐かしい思い出	今は誰とでも話ができます。Oさんは、今は苦しくてしかたがないので、いつも話をしています。何か伝わってくるものがあって、この間は、お父さんが来たとか、お母さんがきたとか話してくれました。	—

Cさん（41歳・女性）

【過去のことについて】

質問内容		回 答 内 容		
		実践者 (柴田 保之)	実践者 (佐田 恵利子)	実践者 (小林 恵里加)
質問 1	こどものころ何をすることが好きでしたか？	お母さんと出かけること	これは一生変わらないのかもしれませんが、小さい頃も音楽が好きで、飛んだり跳ねたりしていました。	—
質問 2	お父さんの好きなところはどこですか？	かつこいいところ	いつも気にしてくれて、優しくて穏やかなところが好き。	—
質問 3	お母さんの好きなところはどこですか？	かわいいところ	元気なところが一番好き。あんなふうに見えて、繊細なところも好き。	—
質問 4	お母さんの作ってくれた料理で一番好きな物は何ですか？	卵焼き	—	—
質問 5	こどものころの一番楽しかった思い出は何ですか？	お母さんと旅行したこと	音楽のことで一緒にいいです。	—
質問 6	こどものころの一番つらかった思い出は何ですか？	まったく理解してないと思われてきたこと	Oに障害があると分かったときとか。それ以上は・・・	—
質問 7	海に行ったことはありますか？	はい	あります。	—

Cさん（41歳・女性）				
【未来（将来）のことについて】				
質問内容		回 答 内 容		
		実践者 (柴田 保之)	実践者 (佐田 恵利子)	実践者 (小林 恵里加)
質問 1	誰と暮らしたいですか？	皆と暮らしたい	皆と一緒にあればどこでもいいです。 皆のことが心配で、一緒に生きたい。	—
質問 2	どんな所で生活したいですか？	皆とやまゆり園で生活したい	今よりももう少し人数が少ないとい いのではないかと思います。皆といるのが 一番ですが、いすぎるのも良くない 気がします。	—
質問 3	楽しみにしていることは何ですか？	また、あの場所へ戻ること	—	—
質問 4	行ってみたいところはどこですか？	東海道五十三次	色々な景色をみたいので、様々な自 然のあるところがいいです。	—
質問 5	将来やってみたいことは何ですか？	やまゆり園の再建	将来の夢は、〇たちの意思がしっか りあるということが伝わった世の中 で生きたい。	—

Dさん（78歳・女性）				
【事前質問】				
質 問 内 容		回 答 内 容		
		実践者 (柴田 保之)	実践者 (佐田 恵利子)	実践者 (小林 恵里加)
質問 1	平日と土日の休日、どちらが好きですか？	休日	—	休日
質問 2	肉と魚、どちらが好きですか？	肉	—	魚
質問 3	みかんとリンゴ、どちらが好きですか？	みかん	—	みかん
質問 4	春、夏、秋、冬、どの季節が好きですか？	秋	—	秋

Dさん（78歳・女性）				
【現在のことについて】				
質問内容		回 答 内 容		
		実践者 （柴田 保之）	実践者 （佐田 恵利子）	実践者 （小林 恵里加）
質問 1	一番、楽しいことはなに？	みんなと一緒に暮らして過ごすこと	楽しいことは、職員が、みんなして〇に話しかけてくれることです。ゴザを敷いてくれたり、お手玉を持ってきてくれたりして、それは毎日が楽しいです。今までも人生で今が一番と言ってもいい程、楽しいです。言い過ぎた。家族の時間もすごく幸せでしたけれど、こういう施設に入ってからという意味ってすごく今が一番楽しいです。	ゆっくりしているとき
質問 2	一番、好きな人は誰ですか？	おかあさん	好きな人、難しいですが、今もお心の中には、母がずっといます。そういう答えで宜しいですか。	一番を決めるのは難しいですが、ここで一緒に暮らしている人です。
質問 3	職員に聞いても知りたいことは何ですか？	私たちの気持ちだけでは、簡単ではないので、人として…	難しい。どういうことかしら。どこかに連れて行ってもらいたいということ？	ゆっくりしたいということです。
質問 4	ともだちと普段どんな話をしていますか？	今日あったできごとを目と目で話そうとしている。あの出来事のこと目と目で話してきた。	話というよりも元気かなと顔を見あったりします。そういうことは毎日、前からずっと続けていますよ。その内、あちらからも聞いてくれるようになるので、そういう話をずっとしてきました。これ以外だと、元気ないなと思うと近づいてみたり、そういうこと位しかできなくて申し訳ないねと伝えているつもりでした。皆、そういう話をずっとしているのが、なんで分かったのですか？	〇さんとはこの前聞いた先生と指筆談したことです。

Dさん（78歳・女性）				
【過去のことについて】				
質問内容		回 答 内 容		
		実践者 （柴田 保之）	実践者 （佐田 恵利子）	実践者 （小林 恵里加）
質問 1	こどものころ何をするのが好きでしたか？	お母さんと人形遊び	何をしてたかしら。あちこちに出かけていたのは覚えていいる。畑のあぜ道をひたすら歩くのが好きだった。夕方になって歩くのが一番好き。	いつもあたたかいところで目を浴びていました。
質問 2	お父さんの好きなところはどこですか？	ばらばらになりそうな家族をまとめたところ。	お父さんの好きなところは色々ありますが、一番はかっこいいところ。何をするにもかっこよくて、あちこちに連れて行ってくれました。 のことをすごく可愛がってくれましたので、今でもよく覚えています。	いつもよくしてくれました。静かで少しだけやさしいところ。
質問 3	お母さんの好きなところはどこですか？	優しいところ、沢山ありすぎですが…	お母さんの好きなところは、優しく明るいところです。ユーモアがあって美人でした。	歌をよく歌ってくれたところ
質問 4	お母さんの作ってくれた料理で一番好きなものは何ですか？	お母さんの焼いてくれたたまご焼き	カレーライス。一番おいしかったのを覚えています。	ご飯の中では、一番は、お茶漬けです。
質問 5	こどものころの一番楽しかった思い出は何ですか？	ガイコツの形をした山にみんなで出かけたこと	—	おままごと
質問 6	こどものころの一番つまらなかった思い出は何ですか？	馬鹿にされたことだが、そのことでお母さんがつらく思うのが悲しかった。	辛いことが…思い出したのは、近所の人に笑い物にされているのを母が悲しんだことがあったので、それが辛かった。生まれてきた のことが不憫だと言っていました。この先、 が幸せになるのかどうか、こんな世の中じゃ〇がかわいそうだと良く言っていました。泣く姿は辛いものがありました。	おじいさんがなくなった時のこと
質問 7	海に行ったことはありますか？	何度も行った。入らなくても見ているだけで落ち着く。	川かしら。海、広いところですよ？行ったことないと思いますが、川が流れているところだと言いますが、広い川には行ったことがあります。	いいえ

Dさん（78歳・女性）				
【未来（将来）のことについて】				
質問内容		回 答 内 容		
		実践者 （柴田 保之）	実践者 （佐田 恵利子）	実践者 （小林 恵里加）
質問 1	誰と暮らしたいですか？	お母さんですが仲間と暮らしたい。	誰と？皆と一緒にだと嬉しいですが、運命はいつも決められているので、どういふふうに伝えていけばよいのかしら。今ここで言っているのだとしたら、今の子たちと一緒にいい。	誰でもよいわけじゃないが、難しいことも知っている。利用者さんが望む場所がよい。
質問 2	どんな所で生活したいですか？	津久井に戻りたい、やまゆり園を守りたい。	自然がある方が断然いいです。	ゆっくり静かな場所
質問 3	楽しみにしていることは何ですか？	お母さんのお墓参りをすること。	これからこの指筆談が続いていくことが、楽しみというか願いです。できることならば、ずっと嬉しいけれど、なかなか難しいことも感じていますよ。よくここまで取り上げてもらっていますね。佐田さん、よく頑張ってくれましたね。有難う。	美味しいものを食べたい。
質問 4	行ってみたいところはどこですか？	お母さんのお墓	それは、どこでもうれしいですよ。世界を広げてくれるものであればうれしいです。	行ってみたい場所は、特にない。
質問 5	将来やってみたいことは何ですか？	みんなで亡くなった仲間を弔うこと、みんなのことばで。	将来は、もう長くはないので、あまり色々は思いませんが、こうして皆と穏やかな日々が続くこと。	ゆっくり美味しいものをたくさん食べることです…

Eさん（60歳・男性）				
【事前質問】				
質 問 内 容		回 答 内 容		
		実践者 （柴田 保之）	実践者 （佐田 恵利子）	実践者 （小林 恵里加）
質問 1	平日と土日の休日、どちらが好きですか？	土日	平日の方が好き	—
質問 2	肉と魚、どちらが好きですか？	肉	卵 ※卵と魚と質問している。	—
質問 3	みかんとリンゴ、どちらが好きですか？	みかん	みかん	—
質問 4	春、夏、秋、冬、どの季節が好きですか？	夏	冬	—

E さん（60歳・男性）				
【現在のことについて】				
質問内容		回 答 内 容		
		実践者 （柴田 保之）	実践者 （佐田 恵利子）	実践者 （小林 恵里加）
質問 1	一番、楽しいことはなに？	人間の観察	仲間と過ごす時間。余暇でドライブ行くのが一番好き。	一番というのは難しいですが、皆でおやつとか食べるときが好きです。
質問 2	一番、好きな人は誰ですか？	内緒	みんな好きです。困りますが、一番は、お父さん。	こちら一番はつけづらいますが、妹やここで暮らしている仲間もいるので、一番は難しいです。
質問 3	職員に聞いてもらいたいことは何ですか？	僕たちの本当の気持ち	父に聞いてもらいたい。兄弟がいるので、この指筆談のことを知ってもらいたいのが本音です。	皆こうして意思があることです。
質問 4	ともだちと普段どんな話をしていますか？	あまり話はしていないです。	ともだちというか仲間というのがしっくりくるのですが、普段どんな話というよりも、挨拶のような感じはいつもしています。皆、仲間たちなので、どうか元気に暮らしてほしいと願っているのです、必ず朝はみんなの顔や表情を見えています。皆も僕を気にしてくれているのがよく分かるので、そういうやりとりをしています。	井上さんがしてくれるように皆のことを聞いています。皆、とてもよく話してくれますよ。例えば、今日食べたご飯とか。

E さん（60歳・男性）				
【過去のことについて】				
質問内容		回 答 内 容		
		実践者 （柴田 保之）	実践者 （佐田 恵利子）	実践者 （小林 恵里加）
質問 1	こどものころ何をすることが好きでしたか？	音楽を聴くこと	こどものころは何をするにも姉と一緒にでした。姉のことが大好きで、いつも追いかけていたのですが、そういうことをよく覚えていています。	小さいときは一緒にいるぬいぐるみがありました。そのぬいぐるみで遊ぶことが好きでした。
質問 2	お父さんの好きなところはどこですか？	どこにでも連れて行ってってくれたこと	私のお父さんはすごく大きいのですが、その背中が好きで、よく追っていました。	父は、いつも優しくかったです。皆のことをいつも考えてくれました。そういった面が男としてかっこよく感じました。
質問 3	お母さんの好きなところはどこですか？	優しくて頑張り屋のところ	母は、いつも優しいところ。	母は、皆がこうしてほしいと思うようなことに気づいてくれました。皆は、そんな母が大好きでした。
質問 4	お母さんの作ってくれた料理で一番好きな物は何ですか？	外食が良かったけれど、ずっと思い出すのはおにぎりです。	ソース焼きそば	カレーライス
質問 5	こどものころの一番楽しかった思い出は何ですか？	旅行	姉と一緒に買い物に行くこと	皆でご飯を作ったり、食べることがよくありました。そんなことが今としては、良い思い出です。
質問 6	こどものころの一番つらかった思い出は何ですか？	お母さんが悲しんでいたこと	その質問が辛い。思い出すのが辛いので。	辛かった記憶はあまりなくて、たくさん皆で良く母を中心に楽しく過ごすことが多かったです。
質問 7	海に行ったことはありますか？	あります。	ある。	はい。あります。こどもの時によく連れて行ってもらいました。すごく楽しかったのを覚えています。

E さん（60歳・男性）				
【未来（将来）のことについて】				
質問内容		回 答 内 容		
		実践者 （柴田 保之）	実践者 （佐田 恵利子）	実践者 （小林 恵里加）
質問 1	誰と暮らしたいですか？	仲間	ここに暮らしている仲間。一番理解があるので、ここにいる仲間と共に暮らしたい。	ここで暮らすというのは難しいと理解・・・
質問 2	どんな所で生活したいですか？	やまゆり園	希望はここで暮らす。ここというのは、津久井やまゆり園。どこかの施設やグループホームというのは慣れない気がします。	—
質問 3	楽しみにしていることは何ですか？	もう一度静かな生活が戻ること	この発表が気になっています。	—
質問 4	行ってみたいところはどこですか？	富士山のふもと	—	—
質問 5	将来やってみたいことは何ですか？	世界を変えること	—	—

(4) 上映会の当日資料

白雪姫プロジェクト

あなたの笑顔が見たいから。

ホーム

白雪姫プロジェクトとは

病気や事故のために、意識が無く、回復の見込みが少ないと思われてきた「植物状態」と言われる人たちが世界に何十万人もいるといわれています。その方たちは、これまで、ベッドで長い間寝たまの生活を送ってこられました。けれど、意識を取り戻し、食べる、思いを伝えるなどの生活行動を取り戻すための方法があることがわかってきました。白雪姫プロジェクトは、回復の方法や、それにつながる意思伝達の方法、口から食事をとること、リハビリの方法、介護の方法などの情報を集め広めるプロジェクトです。私たちは「誰もが思いを持っていて、回復する可能性がある」ということが当たり前になっていく世界をめざします。

白雪姫は王子さまの愛によって、目覚めることができました。そして白雪姫は森の動物やこびとたちともすぐに仲良しになりました。私たちは、国や肌の色の違い、体の大きさや背の高さの違い、宗教や、性別や、障がいのあるなしや、考え方など、いろいろな違いがあります。でも、その違いはとても素敵なこと。ひとりひとりがみんな素敵で大切な存在であり、お互いに尊重して誠実に向き合って、みんなで幸せに生きていくことも考えていきます。

いいね！ 2.4万 ツイート



僕は、三時間の命と宣告をおかけさまで今は、気持ちを伝えられなくなっています。

宮田 俊也のスピーチ



メルマガ登録は33秒です！



白雪姫プロジェクトの活動

白雪姫プロジェクト

「白雪姫プロジェクト」のHPより抜粋 (<http://shirayukihime-project.net/>)

会話補助、コミュニケーション補助、意思伝達装置のことや、リハビリに関することをお伝えします。

おはなしだいすき

あなたの想いが知りたいのです

最新ニュース

- ★「たけちゃん言葉」PDFをアップしました11/24up
- ★白帯姫プロジェクトの応援をお願いします！
- ★丸山さんの「あなたをもう」お聴き下さい(聞くとすぐに眠ります)

今月のインタビュー
レッツ・チャット開発者の松尾さんです！

みんなで広めよう！
おはなし広報大使の
広場はこちらです

チラシ、認定証、名刺が
ダウンロードできます

このHPについて

話せなくても、気持ちを伝える方法はいくつかあります

おはなしノート

イラストを選ぶことで、気持ちを伝えられます

あいいうえお表

透明文字盤を使って、話し手の視線から気持ちを伝えます

意思伝達装置

その方に合った、意思伝達装置を見つけて欲しいです

スイッチのいろいろ

気持ちを伝え合えたよ！というお話を一部ご紹介しますね

「おはなしだいすき あなたの想いが知りたいのです」のHPより抜粋 (<http://ohanashi-daisuki.com/>)

「おはなしノート」の使い方と仕組み
How to use Ohanashi Note

「おはなしノート」は、イラストで気持ちを伝える「お手伝いをするためのもの」です。どなたにも楽しく使ってもらいたのですが、とくにおはなしをすることでのコミュニケーションがとりたい方にとって、強い味方になってくれます。

Ohanashi Note is to help exchanging thought with illustrations. Everyone must be pleased to use it, but it should give a powerful way to communicate with persons especially who have difficulties to talk.

たとえば

文字を書くことや、話すことが難しい方と
It's hard to write letters and to talk.

自閉症などの障がい、言葉より絵が得意な方と
From impairments like autism, from impairments like autism.

小さなお子さんと
small children.

にほんご、日本語での会話が難しい方と
It's hard to talk in Japanese.

※海外旅行先などでも使えます。
※It can be used even in overseas.

「おはなしだいすき あなたの想いが知りたいのです」のHPより抜粋 (<http://ohanashi-daisuki.com/>)

よく使う言葉
Basic terms

食べる eat

見る look

聞く listen

話す talk

寝る sleep

起きる wake up

書く write

出かける go out

持つ hold

お風呂 bath

トイレ toilet

歩く walk

走る run

～したい want to ~

はい Yes

いいえ No

「おはなしだいすき あなたの想いが知りたいのです」のHPより抜粋 (<http://ohanashi-daisuki.com/>)

自分で使いやすいように工夫して使ってください。
Make it easy to use with your original arrangement.

①必要なページをダウンロードして印刷しましょう。
Download necessary pages and print them out.

②使いやすいように工夫してみてください。
Think about your original arrangement.

たとえば

ファイルにとじたりクリアースに入れます。
Put them in a folder or put them in a clear sheet.

裏面を折り込んで裏面に貼って使うことができます。
Fold the back and stick it to the back to use it on the back.

③自分についての情報や必要な項目を書き足して自分だけの「おはなしノート」をつくりましょう。
Add your original information and necessary items to make your own Ohanashi Note.

④皆さんで楽しく使ってください。
Enjoy with your friends.

「おはなしだいすき あなたの想いが知りたいのです」のHPより抜粋 (<http://ohanashi-daisuki.com/>)

あいさつ
Greetings

こんにちは
Good afternoon.

おはようございます
Good morning.

こんばんは
Good evening.

さようなら
Good bye.

はじめて
Nice to meet you.

元気ですか？
How are you?

いただきます
Let's eat.

ごちそうさま
Thank you for the meal.

ありがとうございます
Thank you.

お困りですか？
Is there anything I can help you with?

ごめんね
I'm sorry.

「おはなしだいすき あなたの想いが知りたいのです」のHPより抜粋 (<http://ohanashi-daisuki.com/>)